

**研究名**：気管支動脈塞栓術において、喀血責任血管である気管支動脈の血管径の違いによる血管塞栓成功率を調査する後ろ向き症例集積研究

**研究責任者**： 呼吸器内科 職名 医師 氏名 武田 啓太

#### **研究の背景・意義・目的：**

喀血は命に係わる症状であり、また生活の質を著しく低下させます。喀血治療の第一選択は気管支動脈塞栓術 (Bronchial artery embolization: BAE) です。

気管支動脈は喀血責任血管であることが多く、BAE の術前に造影 CT を用いて気管支動脈の評価を行います。喀血責任血管と推定する一つの項目に気管支動脈径があります。気管支動脈径は 2 mm 以上で喀血リスクが高まると言われます。そのため、BAE において気管支動脈の塞栓対象血管径は 2 mm 以上とされることが多いです。しかし、実際は 2 mm 未満の気管支動脈でも BAE が行われることは経験されます。

2 mm 未満の気管支動脈がどの程度喀血に関与しているのか、また BAE を施行する際に適切に塞栓されているか、という点は過去に報告がありません。そこで本研究では、当院で BAE を施行した患者様の気管支動脈径に着目し、喀血の原因となった気管支動脈のうち 2 mm 未満の気管支動脈の割合を調査します。また、血管径が 2mm 以上と 2mm 未満の気管支動脈に分類し、塞栓成功率を比較検討します。

#### **研究の方法：**

##### **・対象となる患者さん**

2018 年 1 月 1 日から 2023 年 12 月 31 日までに当院で MDCTA を行い、BAE を施行した方

##### **・研究期間** 院長の研究実施に関する決定通知発行後から西暦 2027 年 3 月 31 日

##### **・利用する検体、カルテ情報**

年齢、性別、既往症、併存疾患、造影 CT と血管造影所見、気管支動脈塞栓術の結果

##### **・情報の管理**

情報は、当院のみで利用します。

#### **研究組織：**

この研究は、当院のみで実施されます。

#### **個人情報の取扱い：**

情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できるような情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。情報は、当院の研究責任者である武田啓太が責任をもって適切に管理いたします。

#### **研究計画書等の公表：**

この研究に関連した各種データについて知りたい場合は、担当医師を通じてその情報の開示を求めるることができます。また、ご希望があれば、研究計画書や研究の方法に関する資料の閲覧や、ご提供することも可能です。ただし、他の患者さんの個人情報や研究の知的財産など、情報の種類によっては開示できないものがあります。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、ご自身の検体やカルテ情報を当該研究に利用することをご了解できない場合などは、研究対象とはしませんので、研究責任者までお申し出ください。その場合でも皆様に不利益が生じることはございませんのでご安心ください。

<問い合わせ先> 独立行政法人国立病院機構 東京病院 呼吸器内科 氏名：武田 啓太  
住所 東京都清瀬市竹丘 3-1-1 電話：042-491-2111 (代)

独立行政法人国立病院機構 東京病院 院長